

楊柳文庫

五

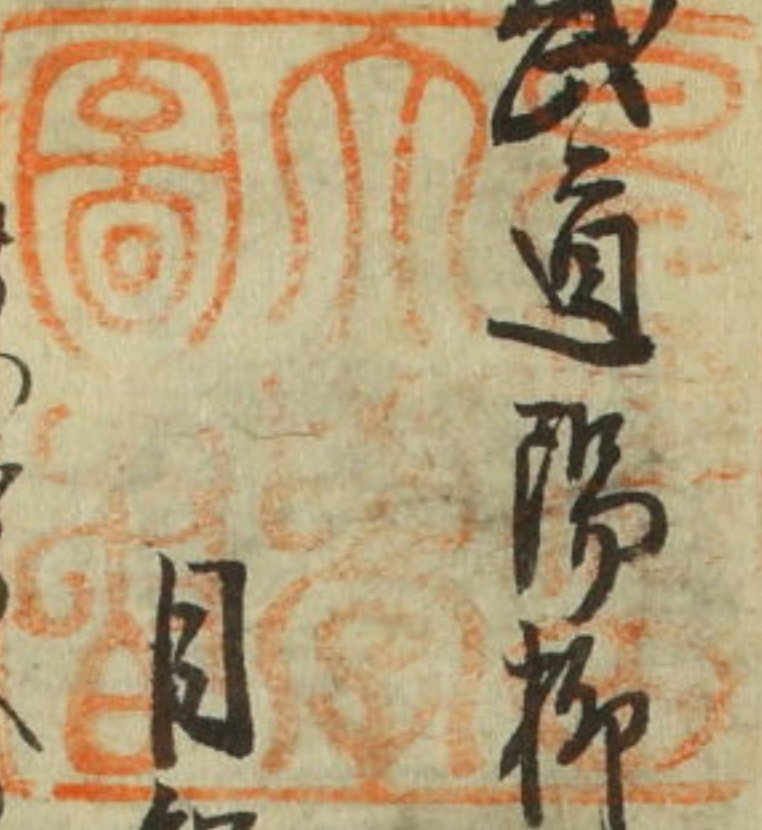
~ 13
3330
5



へ13
3330
5



武直陽柳文庫一巻之六



目録

- 一 水倉兵助お伴の事水倉兵助お伴の事
- 一 水倉水倉の事水倉
- 一 物北三年由來の事物北三年由來の事
- 一 三年三年の事三年
- 一 虎上菊五郎の事虎上菊五郎の事



天正十年八月廿九日
本大學出版部
贈

は本六神の荒木行末の續元中七世六分者之口
岸倉人長子之譜
多見道徳の字左

武通陽柳文庫一巻之六

お倉兵助お伴之忠義の年

物化三年倉人十載

賢きも過りたるもまた人のやま
ききし老のなみそ併も形姪
をふくくり甲一りめり小もむ
ちらうあまねは少知の長きま

さき書ぐのうまきどもあつ
て名やうくとありよおろ
身の内と外とをいひわちく二階
つらぐらうればはあやぢきくま
しかりどもきしつげよら
成書中よりとみかをきし句
以後のうくると四やうとも一
命づつとてあつとまかりさく

しとりあはあ件きとあく
き書師の事とあの人ま件な
りまらする気多あき中あても
うらあとりつは内和ともよ
あまやきた半よらつは何半よ
もとりあがう気まそて
あまらうてあつとさあ
まのま書しとらうとまかり

甲とらめあさめ一れりあてたち
えりり

是る處の法半一ゆりて
飛を何をゆりて心をま
未のを幸ひの中ま
て金子をむきかき
新ひまの比ま
半まぐり

あやとちの浪人なま
うりを拂ひ金くが
つくりがわの
の題をゆ
言を重
つて衣の者の
群集の中
けり

うがく名高き一し家も
浪人あし山和合人とりあて森
布谷所より細尾指布の
のくくひのまぐさそらみら
まきししつら果あらし
そのぶの一言をちりりりり
あきあきしよけわてもそのび
くしゆらあゆしと酒あし知て

四世ゆれ縁をとりはましく
あしと縁をとりあらし
つらつら一物まぐさを浪人の
そらゆらまぐさあしあきあき
浪人をとりあらしのとりあし
此三年より夏三郎夏卯の後
見し一飲一口のみを討ち
一茶室の武士とてあきあき

移北三年由來の事

移北三年金谷の田舎とちりる事

移北三年が由來をるづり

信州赤松の地を田舎とす

移北三年の事

同地を即ち赤松の地とす

人高岩物とす

高岩とす

ゆくとた朋友よきとす

の極置よおのむき

流石ちいすの金燈

しうとち

仙くも魚をうし

りしむもむらり

ちの三年目をあど

しうとち

ついでよきくてもうのき世をとど送り
てりりまうりよみ流るべおのこ
が舎人よ極のそ白のそ筆
を流いて翌日麻布く厚し
りくそればは流の海に橋南
とゆりそ所もゆきののそり
をむむめりり流いてのとめ
茶子をもるづさく茶園しそと女

よむりい物者は以白上野とみ
以身よきりり流るるりり
とてりり上伝るるるるるる
しりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
のれをを差すりりりりりり
歌と通りりりりりりりりり
在りりりりりりりりりりり

しすい ぬぐ ぬぐの 業をとりしめても
新多 ぬぐの 業をとりしめても
了合一も 執し せしむしと 婿
海よりぬれよりぬれ 是よりり 三年を
梅中所の 世帯を 仕むい 念人
か 何中子と ちりり 朝の 湯より
家も けし 居場のを ち 掃除又の
物自の ちを 汲新味 味の 世帯や
居 梳を 洗よ こと まで ても 留

て ぬぐの ごとく 御さし しく
念人 いちいよ ちりり ちび 着る 物の
着もの の や ち 居 貝 ます ても ち
世帯を ちりり ちの 念人 ち ち ち
居を ちりり ち 精を ちりり ち ち
古す ちりり ち 目く ち ち ち ち
赤糸 母 ちりり ち ち ち ち ち
と ちりり ち ち ち ち ち ち

金人の色紙をよみてしるや月とすを
ちりしうば金人が他おすうとた
代誌を古を布あつらへる人もだ
志の山坂朝のあく日ぐは糶おと
ろくして病心癒めて善しちんや
あつらへる人のお男あつた
つぎてけあつた

或は陽柳文集をよむ

ちり

ちりしうばの
あつた

あつた

